０７／１１／２５　　礼拝メッセージ　　近藤修司　牧師

主　　題： 主イエスの祈り　５
聖書箇所：ヨハネの福音書　１７章２０－２６節

「主の祈り」を学んでいます。イエスがどのような祈りをなさったのかを見て来ました。少なくとも、私たちが望み期待することは、この祈りが私たちの信仰生活に大きな励ましをもたらしてくれることです。主が祈ってくださっているという事実はそれだけでも私たちに大きな励ましをもたらしませんか？私たちはイエスがどんなことを祈ってくださっているのかを見て来ました。私たちの弱さを知っておられる主は、あなたが罪から永遠に守られるように、あなたの心がいつも主の喜びに満たされ続けるように、というのは、信仰生活において私たちの心はいつもいろいろなことで動揺しすぐに喜びを失ってしまうからです。敵からサタンからしっかり守られて行くように、そして、生かされている目的、その使命をしっかり果たすことができるようにと。主が守ってくださっているから私たちは主から与えられた使命を果たすことができるのです。あなたの弱さをあなた以上に知っておられる神があなたを用いてくださるのです。そして、その事実を私たちがしっかり覚えるなら、あなたの内に期待と意欲が膨らんでくるはずです。どのように神が私を使ってくれるのか、どのようにして私たちを用いてご自身の栄光を現わしてくださるのか――そこに私たちはしっかりと目を留めなければいけません。みことばは私たちに大きな希望と励ましをくれます。この真理は私たちのうちに働いて私たちに大きな確信をもたらしてくれます。神は私を使ってくれると。神が私たちにどんなに大きな祝福を与えてくださっていることでしょう。みこころに逆らうことを繰り返している私たちに、神はどれほど忍耐深く私たちをあわれみ、私たちを赦し、私たちを用い続けようとしておられることか、これだけでも十分ですが、みことばはその後また私たちに大切なことを教えてくれていますから、続きを見て行きます。今日は２０節から見て行きます。これまで私たちは、イエスご自身がご自分のために祈られた祈りを見ました。そして、次に弟子たちのために捧げられた祈りを見て来ました。今度は未来の信者に対する祈り、この当時から見て、私たちのように後に救われる信者のための祈りがここに記されているのです。

☆主イエスの祈り

３．未来の信者たちに対する祈り　　２０－２６節

２０節を見てください。**「わたしは、ただこの人々のためだけでなく、彼らのことばによってわたしを信じる人々のためにもお願いします。」**、弟子たちの伝道によって、イエスとともにいた弟子たちが出て行ってイエス･キリストの福音を宣べ伝えることによって、イエス･キリストを信じる人々のことです。別の言い方をするなら、これから誕生して行く教会のための祈りでもあります。イエスはどのようなことを祈られたのでしょう？

１）一つとなるように

（１）神のみこころに従うこと、みことばに従うことによって

２１節**「それは、父よ、あなたがわたしにおられ、わたしがあなたにいるように、彼らがみな一つとなるためです。」**と、イエスが教会のために祈られたこと、これから生まれて来るクリスチャンたちのために祈ったこと、そのことをこのみことばが教えています。それは一つとなること、一致のために祈られたのです。確かに、このことばは誤解されています。というのは、キリスト教会の中にも様々な動きがあって、その中の一つにエキュメニカル運動というのがあります。これは目に見える教会の一致を実現しようするのです。教会の再一致運動とも言われているように、もう一度教会を一つにしよう、お互いの対立を捨てて一つになりましょうというのです。また、超教派ということばもお聞きになったことがあるでしょう。これは伝道や奉仕の具体的なプログラムにおいて皆が協力し合おうというものです。では、このようなことをこのみことばが教えているのでしょうか？そういう考えをもっている人たちは、このみことばを使って「ほらみなさい、イエスさまがこういうことを望んでおられる、だから、私たちはこの地上にあってもう一度目に見える一致を教会はもつべきだ」とか「いろいろな働きのために教会が皆いっしょになるべきだ、そのようにイエスさまが教えておられる」と言うのです。私たちは、果たしてそれがイエスがここで教えておられることかどうかを考えなければいけません。結論から言うと、イエスはそのようなことは教えておられません。なぜなら、神がイエス・キリストを信じた私たちに何を望んでおられるのか、神のみこころとは何なのか、私たちが繰り返し学んでいることですが、それは、一人ひとりのクリスチャンが神のみこころ、みことばに忠実に従って生きて行くことです。神が期待しておられることはこれです。それなら、みことばに対してそれほど忠実でなくてもいいという人々と、どうしていっしょに働きをすることができるのか？それを神はお喜びになるか？ということです。神が望んでお

られることは、神のおことばに対して忠実であり続けなさいということです。
◎サタンの攻撃
　サタンがどのような誘惑をするのか、人類の歴史上、どんな働きをして来たのか私たちはすでに学びました。
（１）神のおことばに対して不信感を抱かせる：創世記３章のところから、サタンはエバに対して**「あなたがたは、園のどんな木からも食べてはならない、と神は、ほんとうに言われたのですか。」**と問いかけ、神のおことばに対して疑いを抱かせ、そして、見事に彼女はその誘惑に敗北したのです。なぜ、サタンは神のおことばを信じないようにクリスチャンの内に働くのかというと、みことばを信じない人には力がないからです。みこころに従う人、つまり、みことばに従う人が神に喜ばれ神の栄光を現わして行くわけですから、みことばに従わない人は当然、神の栄光を現わすことなどあり得ないわけです。だから、サタンは人々がみことばに従わないように、常にそのような働きを為して来たことを私たちは知っています。パウロはこのようなことを警告しました。Ｉテモテ４：１**「しかし、御霊が明らかに言われるように、後の時代になると、ある人たちは惑わす霊と悪霊の教えとに心を奪われ、信仰から離れるようになります。」**と。終わりの時代になると、人々はますます真理から外れて行くというのです。なぜなら、サタンがそのように働くからです。神のおことばに従って行かないようにと働くのです。
（２）聖書には誤りがある：キリスト教会は常にチャレンジを受けてきました。ある時は、聖書が本当に神のことばなのかという、神のおことばの主権、無謬性に対してチャレンジを受けました。神のおことばは誤りが含まれている、神のおことばはすべてが正しいわけではないというのです。聖書には誤りがあると。だから、私たちはみことばをしっかり学んでこのような結論に達したのです。それは、原本においてすべての部分が平等に、また、すべてのことばが神の霊感を受けて記されたものである、ゆえに、このみことばは原本において神のことばであり、誤りがないと、それが私たちの信仰です。そして、それがみことばが私たちに教えてくれていることです。
（３）聖書だけでは不十分：その攻撃が止むとまた別の攻撃がやって来ました。聖書だけでは十分ではない、聖書プラス何かが必要だという考え方です。例えば、心の問題の解決には聖書だけでは不十分だ、この世の知恵が必要である、この世の専門家の知恵が必要だと、このような考え方は今現在も教会の中に入り込んでいます。しかし、私たちが分かっていることはみことばだけで十分だということです。なぜなら、人間の心を変えることができるのは人間の知恵でも技でもない、神です。その神が唯一与えてくださったおことばはこの聖書です。聖書のみことばが私たちの心を変えるのです。悲しいことに、いつの間にかだまされてしまって、教会は聖書以外のところに解決を求めようとするのです。これは大きな誤りです。私たちはもう一度聖書に戻って来なければいけません。
　ですから、私たちの責任はこの神のおことばの真理を妥協することなく、正しく伝え続けて行くことです。ですから、神のおことばに対して、みことばが明らかに教えていることを否定するような場合、どうしてその教会、人々といっしょに働きをすることを神が祝してくださるでしょう。逆に神が望んでおられることは、私たちは彼らに対して、それは間違っているということを明確に示して行くことです。そこで、忘れてはならないことは、なぜそうするのかということです。彼らを愛するからです。みことばを見たとき、私たちが罪を犯した兄弟姉妹に対してなぜ彼らの罪を明確にするのか、彼らを愛するからです。私たちがすることのすべてはキリストの愛に基いてしなければなりません。そのことは後で見て行きます。ですから、私たちが教会において他の教会を非難し、人々をさばいて、自分たちは正しいと、そのようなことを言っているのではありません。聖書がこう言っている、だから、そうでないところにはそれは違うと指摘すること、また、同時に、そういうことを教会の皆さんに明らかにすることによって、皆さんが間違った教えから守られて行くことです。願わくば、その人たちが正しいところに戻ってくるように、それは、皆さんの家を訪問するエホバの証人の方々、モルモン教の人たちに対してもその通りです。彼らの教えていることは悪です、みことばに沿っていません。それは偽り、サタンの教えです。私たちの責任はキリストの愛をもって彼らが真理に立ち返るように真理を教えて行くことです。ですから、お分かりのことと思います。みことばに従おうとしている者たちとそうでない者たちとがいっしょになって、どうして神の栄光を現わすことができるでしょう？
　ですから、明らかにこの箇所でイエスが「一つになるように」という祈りをされたとき、キリスト教と名の付くものがいっしょに集まればいいという、現在、私たちの周りに見るようなエキュメニカル運動や、超教派の運動には問題があるのです。では、イエスは何を祈っておられたのでしょう？ここで言われているのは**「みな一つとなる」**ことです。それを理解するために私たちはこの当時存在していた問題を考えなければいけません。明らかなことは、ユダヤ人と異邦人の間には問題があったのです。まだ、教会が誕生していない時代のことです。ご存じのように、ユダヤ人たちにとってこの弟子たちが異邦人

のところに行って伝道するということは大変な問題でした。そのように人々は明らかにユダヤ人と異邦人とを区別していたのです。イエスが言われたことは、そのように異邦人だ、ユダヤ人だという区別が全くない、イエス・キリストによってみなが一つになるということです。そして、そのことは聖霊が下られて現実のものとなったのです。ですから、「使徒の働き」を見て行くと、弟子たちはそのことに驚かされて行くのです。神は次第に異邦人を救い始めたのです。コルネリオが救われた、ペテロはそのことに驚きました。エルサレムにみなが集まって、いったい何が起こっているのだろう、神は異邦人にも恵みを与えておられるということで、人々は異邦人に対する神の働きを認めて行くのです。

みことばを見て行くと、２１節に**「父よ、あなたがわたしにおられ、わたしがあなたにいるように、」**と記されています。明らかに、ここに記されている**「一つになる」**ということと、父なる神と子なるイエス・キリストの関係とが関連していることが見て取れます。三位一体という教理を考える時に、確かに、父なる神と子なる神イエス・キリストの間には区別がなされています。異なった人格が存在します。それでいて彼らは統一しているのです。確かに、ユダヤ人と異邦人とは区別されていますが、一つにされるのです。ですから、Ｉコリント１２：１３に**「なぜなら、私たちはみな、ユダヤ人もギリシヤ人も、奴隷も自由人も、一つのからだとなるように、一つの御霊によってバプテスマを受け、そしてすべての者が一つの御霊を飲む者とされたからです。」**とある通り、神がそういう区別を取り払ってくださった、今まであったそのような垣根を神が取り払ってくださって、イエス・キリストを信じる者はユダヤ人であろうと異邦人であろうと、キリストのからだに属する者となるというのです。エペソ２：１９でパウロはこのように言います。**「こういうわけで、あなたがたは、もはや他国人でも寄留者でもなく、今は聖徒たちと同じ国民であり、神の家族なのです。」、**ですから、こういうことです。人種も国籍も階級も身分も全く関係ない、キリストを信じた者はみな一つなのです。イエスのこの祈りは答えられているのです。考えてみてください。イエス･キリストが祈った祈りは聞かれませんか？イエスが祈った祈りで答えられなかったものはあるでしょうか？私たちが分かっていることは、神のみこころは必ず成るということです。私たちの問題はみこころを求めるのではなく、私たちの願いを神に要求することです。だから、答えられないことがあるのです。イエスの祈りは１００％父なる神のみこころを求めていました。だから、その祈りが答えられないはずはないのです。イエスが祈られたことは、ユダヤ人も異邦人もすべての人が人種、国籍に関係なく、みながキリストにあって一つになるということで、その祈りは間違いなく答えられています。ですから、私たちは神の家族としての交わりを楽しんでいるのです。感謝なことに、私たちの教会の中にもいろいろな国籍の皆さんがおられます。肌の色が違おうと何かが違おうと、私たちはキリストにあってみな家族なのです。そのことをイエス･キリストはここで話されたのです。

（２）救われた一人ひとりがみことばを愛すること、みこころを行なって行くことにおいて

教会という組織を考えた時に、神が私たちに望んでおられることは、あなたが神のおことばである聖書のみことばを愛して、そのみこころに喜んで従って行く者になることです。そうして教会は一つになって行くのです。このことは私たちは繰り返しいろいろなところで学んで来たことです。最初に話したように、神があなたに期待しておられることはあなたがみこころに従って行くことです。神のおことばに従うことです。それは教会の一部の人たちだけの責任ではなく救われた一人一人の責任であるということを見て来ました。２１節と２３節を見てください。なぜ、そのことが必要なのか、その目的が記されています。２１節**「それは、父よ、あなたがわたしにおられ、わたしがあなたにいるように、彼らがみな一つとなるためです。また、彼らもわたしたちにおるようになるためです。そのことによって、あなたがわたしを遣わされたことを、世が信じるためなのです。」**、２３節**「わたしは彼らにおり、あなたはわたしにおられます。それは、彼らが全うされて一つとなるためです。それは、あなたがわたしを遣わされたことと、あなたがわたしを愛されたように彼らをも愛されたこととを、この世が知るためです。」**、２１節では**「世が信じるため」**、２３節では**「世が知るため」**と、この目的のためにイエス･キリストを信じる者たちが一つになって行くことが必要であると言っているのです。この二つのみことば**「世が信じるため」「世が知るため」**と、確かに、違うギリシャ語が使われていますが、言わんとしていることは同じです。つまり、イエスが望んでおられることは、この世の中のまだイエス・キリストの救いを受けていない人たちが、このすばらしい救いに至ることです。そのために、キリストによって一つにされた者たちが、神に対する愛において、みことばに対する愛において、みこころを行なって行くという、私たちが生かされている目的においてしっかりと一致して行くなら、間違いなく、その証が人々の前に明らかにされて行くということです。なぜなら、私たち一人ひとりがみことばに忠実に従って行くなら、私たちは変えられて行きます。そのとき、本当にこの群、教会の中に神にあっての一致が生まれて来ます。それは罪を見ないで妥協しましょうということではなく、みことばに基いて私たちが正しく歩んで行くなら、神がその群を一つにしてくださって、その結果、キリストのすばらしい証が人々の前で明らかにされて行くのです。ヨハネ１３：３５に**「もしあなたがたの互いの間に愛があるなら、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての人が認**

めるのです。」とあるように、私たちが変えられて行くなら、そして、教会が本当に神に喜ばれるものへと一つになって行くなら、間違いなく、イエス・キリストを知らない人々はこのキリストを私たちを通して明らかに見ることになると言うのです。

２１節の後半に**「そのことによって、あなたがわたしを遣わされたことを、世が信じるためなのです。」**とあります。何を信じるのか、そのことは今説明しましたが、みことばも教えてくれています。つまり、世の中の人々が知らないことは、イエス・キリストが父なる神に遣わされた救い主であるということです。立派な聖人だと思っているかもしれないし、キリスト教という宗教の教祖だと思っている人もたくさんいるでしょう。彼らが知らないことは、イエス・キリストが父なる神から私たちのためにこの世に遣わされた唯一の救い主だということです。また、２３節の後半には**「あなたがわたしを遣わされたことと、あなたがわたしを愛されたように彼らをも愛されたこととを、この世が知るためです。」**とあります。つまり、イエス・キリストがこの世に遣わされた目的は何だったのか、彼はいったい誰なのかということを世の中の人々が明確に知って信じるように、そして、**「あなたがわたしを愛されたように彼らをも愛された」**と、つまり、主イエス・キリストがどれほど信者であるあなたのことを愛しておられるのか、そのことを世が知るためだというのです。みことばはすごいことを教えたのです。**「あなたがわたしを愛されたように」**と父なる神がイエス･キリストを愛されたように、その同じ愛をもって何と信者である私たちを父なる神は愛してくださっているというのです。そのことを私たちは覚えなければなりません。どれほど大きな愛でもって私たちは愛されているかです。多くの人々はこのキリストの愛を疑います。なぜなら、自分の思い通りの生活ができない、問題ばかりだと、その時に私たちが疑うのは神の愛です。しかし、みことばが私たちに教えていることは「あなたは愛されている」ということです。疑うのなら、私たちはもう一度十字架を見上げなければいけません。そして、このみことばに立つことが必要です。

◎私たちがお互いに愛することはどうして可能なのか

・神がまず私たちを愛してくださったから

同じヨハネはＩヨハネ４：１９で**「私たちは愛しています。神がまず私たちを愛してくださったからです。」**と言っています。神の愛が分かれば少なくとも私たちのうちに起こる変化は、その愛によって生きて行こうとすることです。自分が赦されたということが分かっている人は人を赦そうとします。だから、私たちがなかなか人を愛せないとするなら、私たちはもう一度イエス･キリストの十字架をしっかり見上げることです。いったいこの愛に自分は値するのかどうか、こんな犠牲的な愛を神からいただくのにふさわしい者なのかどうかです。ふさわしい人はどこにもいません。しかし、そのような愛で愛してくださっている神を私たちは毎日の生活でどれだけ悲しませていることでしょう。でも、神は私たちを愛し続けてくださっているのです。だから、ヨハネは私たちに私たち兄弟姉妹が愛し合うことができるのは、私たちが神の愛をしっかり覚えているからだと言うのです。神の愛をいただいたからです。このＩヨハネ４：７でヨハネはこのようなことを言っています。**「愛する者たち。私たちは、互いに愛し合いましょう。愛は神から出ているのです。愛のある者はみな神から生まれ、神を知っています。」**、つまり、**「互いに愛し合う」**というこの愛が救われた人の特徴だと言っているのです。８－１１節**「 愛のない者に、神はわかりません。なぜなら神は愛だからです。:9 神はそのひとり子を世に遣わし、その方によって私たちに、いのちを得させてくださいました。ここに、神の愛が私たちに示されたのです。:10 私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、なだめの供え物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。:11 愛する者たち。神がこれほどまでに私たちを愛してくださったのなら、私たちもまた互いに愛し合うべきです。」**、もし、愛し合うことが重荷となっているなら、私たちは問題を抱えているのです。もし、私たちがどれほど大きな愛でもって愛されているのかということを覚えるなら、その愛が私たちに大きな変化をもたらしてくれます。人を愛する者へと神が変えて行ってくださるのです。イエス･キリストの犠牲という大きな愛、**「人がその友のためにいのちを捨てるという、これよりも大きな愛はだれも持っていません。」**とヨハネ１５：１３でイエスは言われました。そのような大きな愛で私たちは愛されているのです。すべてをお造りになった真の神が人となって、その方が私たちのためにご自分のいのちを捨ててくださった、これ以上の愛はどこを捜して見つかりません。クリスチャンである皆さん、このみことばが教えるように、あなたは父なる神がイエスを愛したその愛でもって愛されている、そのことを世の中が知るようにと、だから、私たちが互いに愛し合うことが必要なのです。教会の中にいろいろな分裂や分派が存在しているなら、どうして世の中の人々にキリストがこんな大きな犠牲をもって私のことを愛してくださっている、クリスチャンを愛しているということを明らかに示すことができるでしょう？無理なことです。一人ひとりがもう一度このみことばに立ち返ることが必要です。どのような愛で私は愛され、そして、生かされているのかと。

◎一致を実践するために

（1）神との一致によって　―　神に留まること

確かに、今見て来たように、愛することも、赦し合うことも、このようなみことばを実践して行くことは難しいと知っています。みこころを行なって行くことにおいて、愛し合って行くことにおいて、みこころに忠実に従って行くことにおいて本当に一つにされて行くということは確かに難しいです。しかし、驚くべきことに、主はそのことを知っておられるのです。ですから、どうすればそれが可能なのかを教えてくれています。２１節に**「また、彼らもわたしたちにおるようになるためです。」**とあります。つまり、神と私たちがつながれている状態です。ぶどうの木のたとえを思い出してください。ヨハネ１５：５**「わたしはぶどうの木で、あなたがたは枝です。人がわたしにとどまり、わたしもその人の中にとどまっているなら、そういう人は多くの実を結びます。わたしを離れては、あなたがたは何もすることができないからです。」**と、**「わたしにとどまり」**と言い、１７：２１では**「わたしたちにおるようになるため」**と、つまり、イエスが私たちに教えてくださっているのは、こうして自分が変えられて行くために必要なことは、あなた自身が神としっかりとつながっていることだというのです。神はあなたに助けが必要であることをご存じです。だから、神はあなたに助けを与え、あなたを支え続けてくださるのです。

Ａ・Ｔ・ロバートソンという学者は「信者の間に一致を保つことを可能にする唯一の方法は、彼ら全員がまずキリストにおいて神と一致することである」と言っています。一致を神は望んでおられるのですが、その一致の目的において、愛において、私たちがしっかり一致して行くために必要なことは、あなた自身が神としっかりと一致することです。しっかり神とつながることです。

２）神がうちにいてくださる　―　愛である神が私のうちに働かれる

２３節**「わたしは彼らにおり、」**と、主イエスが私たち信者のうちにいてくださると言います。だから、このような人間的に不可能と思えることが可能だと言うのです。なぜなら、神は私たちを変え続けておられるからです。Ⅱペテロ１：４で**「その栄光と徳によって、尊い、すばらしい約束が私たちに与えられました。それは、あなたがたが、その約束のゆえに、世にある欲のもたらす滅びを免れ、神のご性質にあずかる者となるためです。」**とペテロが教えるとおり、神は救われた私たちを神のご性質にあずかる者となるように働いておられるのです。Ⅱコリント３：１８では、栄光から栄光へと私たちをキリストに似た者に変えて行ってくださるとあります。**「私たちはみな、顔のおおいを取りのけられて、鏡のように主の栄光を反映させながら、栄光から栄光へと、主と同じかたちに姿を変えられて行きます。これはまさに、御霊なる主の働きによるのです。」**。つまり、イエスが、神が私たちを変えて行ってくださるのです。ですから、私たちにとって非常に難しい人間関係において愛し合うことができるのは、そこに神の助けがあるからです。愛であるキリストが私たちの内にいてくださるから可能になるのです。決して、私たちの内に本来そういった力が存在しているのではないのです。愛なる神が私たちのうちにいてくださるから、私たちはキリストの愛をもって人を愛することができる者になって行くのです。夫婦や家族、職場や学校において、教会においても私たちはこの内にいてくださる愛なる神によって愛を実践することが可能となったのです。それがクリスチャンです。ですから、みことばは繰り返し私たちに教えてくれます、**「わたしは彼らにおり」**と。イエス･キリストが私たち信者のうちにいてくださるのです。変わって行くはずです。だから、クリスチャンは、本当に神が救ってくださったのなら、今までと同じ生き方ができなくなって来るのです。

今、私たちはイエスが私たちのうちにいることということを見たし、みことばは明らかに、聖霊なる神が私たちのうちに与えられて、エペソ４：３０やⅠコリント１２章にもあるように、聖霊が私たちに内在してくれているから私たちは生まれ変わったことを教えています。私たちの生き方は変わって行くのです。それは生き方を変えなければいけないのではなくて、自らのうちで変えたくなって来るのです。そのような変化を神は私たちにもたらしてくれるのです。今までの自分の生き方にキリストを加えたのではありません。天国に行ける保証だけをもらうためにイエスを信じましょうと、そのようなものでもありません。これまで神に逆らってきた罪を悔い改めてイエス・キリストを信じ、イエス・キリストに従って行こうと心から受け入れるなら、私たちは生まれ変わります。救われた証拠はその人の生き方が明らかにします。ですから、人を愛することができるは、愛なるキリストが私たちの内にいてくださり、その方が助け、その方が働いてくださるからです。私たちがお互いを赦し合うことができるのは、赦しの神であるキリストが私たちの内にいてくださるからです。どんな時でも喜ぶことができるのは、喜びの源であるキリストが私たちのうちにいるからです。知恵をもって生きることができるのは、知恵であるキリストが私たちの内にいてくださるからです。義なる正しい生き方ができるのも、義なる正しいお方であるキリストが私たちのうちにいてくださるからです。神は私たちに無理難題を提供して「さあ、やりなさい」と言い、できない私たちをご覧になって喜んでおられるのでしょうか？責めようとしておられるのでしょうか？そうではありません。神が教えておられることは、それが可能になった、生まれ変わった、このような者へと神が生まれ変わらせた、だから、愛することもできるし、赦すこともできるし、どんなときでも喜びをもって、感謝をもって歩んで行くことができるということです。このようなすべての、かつて、不可能と思えたこと、人間的には絶対に不可能なことが可能となったのです。そ

のすべての源であるキリストが私たちのうちにいてくださるからです。

３）栄光を彼らに与えた　―　私たちを用いてご自身の栄光を現わされる

２２節ではこのように教えています。**「またわたしは、あなたがわたしに下さった栄光を、彼らに与えました。それは、わたしたちが一つであるように、彼らも一つであるためです。」**。父なる神は確かにイエス・キリストがこの地上におられたときに栄光を与えられました。つまり、そのことによってイエスはこの父なる神のすばらしさを人々の前に明らかにしたのです。また、言い方を変えるなら、父なる神がイエスを通してご自身のすばらしさを世の中に明らかにされたのです。今、その栄光が私たちに与えられていると言うのです。つまり、父なる神がイエスに栄光を与えてイエスをお用いになってご自身のすばらしさを証されたように、同じことを、神はあなたを通して為そうとしておられるというのです。すごいことが記されていると思いませんか？みことばは確かに私たちに働いて、私たちに罪を示します。しかし、同時に、私たちにすばらしい神の祝福をひも解いてくださって、今まで私たちが見ていなかった祝福を私たちの前に示してくださって、「あなたは祝されている！」と言われるのです。天国に行けるからすばらしい、それだけでなく、今、私たちはこの地上にいてすばらしい祝福をいただいているのです。しかも、この神のすばらしいご栄光を現わすために、ここまで神がすべてのことを備えてくださって、このような計画をおもちだと示されるのです。私たちは大きな責任があることに気付くだけではなくて、そこに私たちは大きな期待を抱くのです。どのように神がこんな私を使ってくださるのか、どのように神は私を用いて栄光を現わしてくださるのか、そのためにも私たちは一致しなさいと教えられているのです。みことばに逆らっている人たちと、そのようなことは無視して、教理など横において、皆一つになりましょうと、それはみことばの教えでないことは見て来ました。私たちに必要なことは、何のために神が私を救ってくださり、何のために神が私を生かしてくださっているのか、その目的をしっかりと覚えて、このみことばを愛して、みことばの真理にしっかりと立って、このみことばの真理を決して曲げることなく、妥協することなく、みこころに従い続けて行くことです。そのときに、その真理において、その歩みにおいて私たちは一つになるのです。そして、そういう集まりを神は用いてくださるのです。なぜなら、見て来たように、神はそのように個人を用いようとされているからです。

あなたには大きな責任があるのです。一番の問題は、教会にやって来て自分はただ後ろに座ってお客さんで何もしないでいることです。それでは済まされないのです。あなたも神の家族の一員なのです。あなたには大きな責任があるのです。あなたがどのように生きて行くのか、それが群れ全体に大きな影響を与えるのです。いい影響を及ぼすか悪い影響を及ぼすか、それはあなたにかかっているのです。ですから、どうぞ、今日みことばが教えてくれたように、あなたはしっかりとあなたの責任を果たすことです。神はあなたを使ってくださるから、あなたは神とつながり、すべてを可能にしてくださる神があなたのうちに生きておられるからです。それがクリスチャンなのです。そして、そんな私たちに神はこのような計画を与えてくださったのです。感謝して、この一週間キリストを証しましょう。「神さま、どうぞ私を助けてください。私をどうぞ御霊に満たして、私のことばも私の生き方もすべてをあなたが用いてくださるように」と。

今日、私たちはこれから出て行きます。大きな希望をもって、この約束をしっかり信じて、神のみわざを期待しながら出て行きましょう。